



# ニュージーランド ウェリントン

2008年9月～2012年2月滞在  
(2010年記 2022年追記)

子どもの年齢 次男:中3～高3 (14歳～17歳) 現地校、補習校

## 基本情報

気温	夏(1月)13～24度 冬(7月)4～12度
緊急電話	警察、消防、救急車 111
電圧	230/240V Oタイプ 日本の電化製品を使うなら変圧器は必需品(現地調達可能)
水	水道水は飲める

## 買い物

日本の物	食品はある程度手に入るが高い 電化製品はNZ仕様の日本企業のものが手に入る
食料品	日本の調味料はスーパーに置いてあるほか、基本的な日本食材は韓国人や中国人経営のアジアンショップで手に入る Haeremai、Wellmart、Yan's (City) A Mart (Johnsonville)、野菜コーナーで季節の野菜:白菜、青梗菜、大根、生シイタケ、マイタケ、豆腐・あげ等 文記 Asian Food Specialist (Kilbirnie) など Lower Hutt に Japan Mart が 2022年11月中旬に開店 オークランドの東京フード( <a href="http://www.tokyofood.co.nz/aboutus">www.tokyofood.co.nz/aboutus</a> ) の通販では送料はかかるが、たいていの物を購入可能 野菜、肉、魚などはスーパーで一通りそう 世界的な燃料費の値上がりで、特に魚が値上がり スナパー52ドル/キロ、鮭も50ドル/キロ、計り売りの場合はキロでいくらの単位 オーガニック食品はスーパーに一部置いてあり、また専門店 <a href="https://commonsenseorganics.co.nz">https://commonsenseorganics.co.nz</a> でも手に入る 日本米、酒、日本のビールはあるが高い ゴボウはなかなか売っていないので、どうしても必要なら乾燥ゴボウを日本から持って行くと良い
日用雑貨	日本のDVDによっては現地のDVDプレーヤーで見られないものがある テレビはほとんどの日本のチャンネル+waowao+CNN+BBCなどが見られる 1年契約150USドル iSakura or MUJITV など 和食器は持参したほうが無難 魚焼き網、卓上コンロ、ガスボンベ、土鍋はアジア系の店で買える 風が強いのでグリップ式の洗濯ハンガーと布団バサミは便利だが布団は外に干す場所がない 2019年1月にダイソーがオープンした(63 Manners St.) 3品で10ドルなどで購入可 はちみつや羊の油を使った自然派化粧品が豊富(安価)

	資生堂やヨーロッパブランドの化粧品も買える 電化製品や日用品は日本の物のように完璧なものは少ないが、十分使える
学用品	電子辞書(英語特化の物が良い)を持参すると良い Google で検索も出来る 消しゴム、シャープペンシル、ボールペンは日本の物の方が高性能 補習校に通う場合、漢字練習帳や国語ノートを持っていく方が良い 日本の参考書はそろえた方が良い
衣類	現地で購入できるが、サイズが合わない場合がある
<b>交通</b>	
公共交通	鉄道はあまり発達していない バスはあるが時間通りに来ないことが多い コロナ禍で時々職員不足で突然にキャンセルされることもある 乗車券にお金を入れておいて乗降時に IC 読み取り機に充てて引き落とししていくスナパーカードがある <a href="https://www.metlink.org.nz/">https://www.metlink.org.nz/</a>
運転免許	車は不可欠 日本の免許取得後 2 年たっていればこちらの免許に書き換え可能だが、来てすぐ運転するなら国際免許は必要

<b>住居</b>	
住宅事情	3~4 ベッドルームで週800~1200ドル 物件は多くはないがゆったりした作りの家が多い <a href="https://www.enz.org/house-rents-wellington.html">https://www.enz.org/house-rents-wellington.html</a> で見つけることができる タンクに湯を溜める方式の家が多く、容量に限りがあるため、日本式に入浴するならガスで沸かす方式の家が良い
日本人が多く住むエリア	市街地 Karori, Khandallah, Ngaio, Newtown など 郊外 Johnsonville, ChurtonPark, Newlands, Tawa など
使用人	口コミで日本人のベビーシッターを探すことはできる
治安セキュリティ	銃社会ではなく比較的安全なので高校生になると日中なら一人でも出歩けるが、日本より犯罪率は高い 13歳以下の子どもは一人での留守番は法律で禁止されており、車の中に置き去りにするのも禁止されている 住宅街では人通りが少ない

<b>教育</b>	
通った学校	Wellington 補習校 Wellington College ( <a href="http://www.wellington-college.school.nz">www.wellington-college.school.nz</a> )
通った学校の詳細	補習校(2022年現在28家族)は小1から中3まであり、両親とも日本人の子どもは少なく、親の一方が日本人の子が多い 小規模(30人弱)なので2学年が一つの教室で学ぶ

	<p>Wellington College はニュージーランドのトップ5に入る公立名門校で、スクールゾーンに住んでいれば入れる</p> <p>男子校で制服があり規律も厳しい</p> <p>勉強はしっかり教えてくれる</p> <p>日本の学校のように面倒見が良いわけではないが、聞きに行くと親身になって相談にのってくれる</p> <p>ESOL(English for Speakers of Other Languages)は週4回程度</p> <p>日本人は1年間の留学組を含めて学校全体で5、6人</p> <p>小学生のうちには学校への送り迎えが必要だが、中・高生になるとスクールバス・公共交通機関で通う</p> <p>ウエリントン市には、公私立の女子校6校;男子校3校;男女共学5校がある</p>
<b>塾 家庭教師</b>	<p>帰国用の塾は現地に無いため、我が家では NHK 学園の通信教育を受けたり、NHK の高校講座をパソコンで受けたりした</p> <p>家庭教師は知人の紹介で英語と日本語が話せる人に週1回英語の writing などを見てもらっていた</p>
<b>習い事</b>	<p>剣道、合気道など日本の武芸のコミュニティがある</p> <p>茶道(裏千家・表千家)、生け花(草月流)、日本舞踊、ヨガは日本人の先生やグループがある</p> <p>Community Education Centre – Wellington High School</p> <p><a href="https://www.cecwellington.ac.nz/">https://www.cecwellington.ac.nz/</a></p> <p>Adult and Community Education – Tawa College</p> <p><a href="https://www.tawacomed.co.nz/OurCourses">https://www.tawacomed.co.nz/OurCourses</a></p>
<b>アドバイス</b>	<p>高校になるとアルバイトをする子も増え、スクールゾーンも広がるので、小学生のように友だちの家を往来することはあまりありませんが、さまざまなスポーツ活動が週1回程度あるのでいくつかの部活に入って友だちと交流することができます。または地域のスポーツクラブに入り冬のスポーツ(ラグビー・サッカー)、夏のスポーツ(ネットボール、クリケット、ソフトボール)を楽しむことができます。</p> <p>現地の高校から現地の大学に行くには NCEA(National Certificate of Educational Achievement)という統一テストをクリアしなければいけませんが、学校の勉強をしっかりやっていたら心配はないです。</p> <p>NCEA はレベル3まであり Y11 から Y13 までの3年間に順次取っていきます。</p> <p>日本の大学の帰国枠受験の場合は統一テストの結果の提出を求められますが、南半球の生徒はその年の帰国枠受験をする9月には NCEA の結果が出ていないため大学によっては代わりに SAT や TOEFL のスコアの提出を求められる場合があります。現地に日本の大学受験塾は無いため日本の帰国生専用の塾を利用するのも良いかと思います。</p>

## 病院

### 医療事情

地域のメディカルセンターに登録をして、自分の担当医 GP(General Practitioner) を決める

まずはそのメディカルセンターの GP に診てもらい、その後必要な場合には専門医に紹介されるシステムになっている

どこにも登録をせずに飛び込みで診てもらおうと、初診・受診料が高く取られる

一応の医療は受けられるが、手術が必要な深刻な場合は日本で診てもらおう人が多い

歯科の治療費は日本の2倍以上

### 薬品

風邪でも捻挫でも鎮痛剤を出して終わりということが多いため、日本で慣れた薬を持参したほうが安心

湿布薬はあまり見かけない  
眼鏡はとても高いので日本で用意したほうが良い

## 交流

日本人	留学生も含めると800名ほどいる 小規模ながら商工会があり補習校の運営にかかわる他、新年会もある 三月会という日本人女性のサークルがあり3カ月ごとに親睦会をする 日本大使館主催のイベントの時など商工会と三月会と一緒に活動することもある 華道、日舞は日本人の先生がいる
現地の人	シャイだが親切な人が多く、こちらから働きかけると打ち解けやすい 子どもが小学生だとホームパーティに招かれたりして、付き合いは頻繁になる 日本に好意的な人が多い 移民が多いせいか、人種差別を感じることは少ない
駐在外国人	自治体主催の大人向けの英語クラス(ESOL)があり、そこで知り合うことが多い

## 伝えたいこと

中高生を帯同する場合、小学生に比べて、英語の習得に時間がかかりますが、基礎的な文法を理解していればはじめのうちだけ親がフォローすることでなんとか授業についていくことはできます。授業は、必修科目以外は選択制です。日本語を取ると日本語選択の現地の生徒と仲良くなれます。また漫画が上手だったりスポーツができた、何か得意なものがあると友だちが素直に感心してくれるので自信が持てるようです。学校生活は日本の高校のように部活が毎日あったり、塾に行ったりするわけではないので比較的のんびりしています。ただ日本の友だちと話すように流暢に話せないため学校でストレスがたまるので、家ではネットで日本の番組を見たり、日本の友人とメールをしたり和食を食べたりしてバランスを取っていました。

多少大変なことはありますが、親は「何があっても守る」という姿勢を見せることが大切だと思います。

ウェリントンは首都なので規模の割に各国のレストランやエンターテイメントが充実しているうえ、たいいていの住宅地は中心部から車で30分以内のところにあります。また郊外には自然が多くトレッキングルートも豊富で、ゴルフもとてもリーズナブルにできます。外国にしてはストレスの少ない住みやすいところだと思います。

ウェリントンの詳しい情報は <https://wellington.govt.nz> や <https://www.wellingtonnz.com/discover/> をご参照ください。